横浜市立 秋葉中学校　　学校評価報告書　　（　　元　　～ 3 年度 ）

元　年度

重点取組分野	具体的取組	自己評価結果	総括
生きてはたらく知	①授業研や生徒による授業評価で授業改善を進め、毎時間の授業を充実させる。 ②様々な手法により、主体的・対話的な授業展開を行い、知恵をはたらかせ生きる力を育む。 ③学習内容をしっかり身につけられるよう学習相談等を実施し、個に応じた支援を充実させる。	①生徒がどの授業にも、意欲的に取り組んでいる。生徒による授業評価を実施した。 ②校内研等を行い、授業改善、授業力向上に努めた。タブレット等ＩＣＴ機器やデジタル教材、図書館等の効果的な活用が進んでいる。 ③学習相談を行い学習支援の充実を図った。	A
豊かな心	①道徳を通して、考え、議論させ、いじめの未然防止などにつながる判断力や心情、態度を養う。 ②規範意識の向上や思いやりの心、人権を尊重する豊かな心を育む教育活動を実践する。 ③互いを認め合い、助け合い、支え合う学校・学年・学級集団をつくる。	①道徳の教科化にむけた整備が完了し、全教員による組織的な授業展開が定着した。 ②人権教育実践推進校として、様々な場面を通して、人権を尊重する心、相手を思いやる心、社会貢献の姿勢を育てた。 ③様々な活動を通し自尊感情が育っている。	B
健やかな体	①体力・運動能力調査の結果を基に、体力の維持、増進に自ら取り組む姿勢を育む。 ②体育的活動を通して、生涯にわたって積極的に運動に親しむ習慣を身につけさせる。 ③健康で安全な生活習慣を身につけさせ、たくましく生きる力を養う。	①調査によれば、運動やスポーツに親しんでいる生徒の比率が市を６％程度上回った。 ②様々な体育活動を通して、体力向上の意識を高めた。 ③けが０をめざしてをテーマに学校保健委員会を開催しケガ防止、生活習慣の改善を促した。	A
生徒指導	①学校、家庭、地域との連携を深め、生徒の健全育成に努める。 ②日々、生徒の状況把握に努め、変化を見逃さず、予防的生徒指導に力をいれる。 ③生徒・保護者への相談活動を充実させ、安心・安全な学校づくりをめざす。	①教職員が指導方針を一致させ、情報共有し、生徒に寄り添った組織的指導ができた。 ②ＳＣや外部機関と円滑に連携できた。金銭的に落ち着いた状態が維持できている。 ③定期的なアンケートや教育相談、生徒との会話を通して、状況把握と支援に努めた。	B
特別支援教育	①コーディネーターが中心となり、個別の支援計画に基づき、組織的・継続的な指導に努める。 ②カウンセラーや外部機関とも密に連携し、専門的な支援の方法も積極的に取り入れる。 ③特別支援に対する考え方や手法を研修する場を設け、教員の専門性を高めていく。	①全教職員で分担し、計画的、継続的な特別支援教育を実施することができた。 ②支援を要する生徒個々の支援計画を作成し、特性や状態に応じた支援に努めた。 ③特別支援教室を活用して、組織的・計画的に指導にあたり、指導の効果が見られた。	B
地域連携	①積極的に情報発信と情報共有を行い、開かれた学校づくりを推進する。 ②学校・地域コーディネーターと連携し、学校・家庭・地域の連携を深める。 ③社会とつながり、共生社会を形成する態度、社会に主体的に貢献する態度を育てる。	①学校だよりやＨＰを活用し情報発信をした。 ②学校地域コーディネーターと連携して、「川上小学校との「ふれあいコンサート」を開催した。また地区懇談会等を通して連携を深めた。 ③地域行事に多数の生徒がボランティアとして参加し密接な連携が図れた。	A
SDGs、ESDの推進	①環境、福祉、防災、人権、国際平和等を学び、次代の社会をつくる力、生きる力を養う。 ②１年次に地域の施設や事業所から講師を招き職業講話、２年次に職場体験、３年次に自己の進路を具体的に考えさせ、持続可能な社会の担い手となるための知識や行動力を育む。	①「人権作文」「よこはま子ども国際平和スピーチコンテスト」（全校）、「Change the world for peace」（３年社会）、全校道徳「広島原爆被爆者による講話」を通ＬＥＳＤを推進した。 ②１年職業講話、２年職場体験、３年進路学習と選択を通して知識や行動力を育んだ。	A
教育環境整備	①思いのある豊かな教育環境の整備に努める。 ②ユニバーサルデザインの考え方に基づき、落ち着いて学べる学習環境を整備する。 ③防犯、防災意識を向上させ、安心・安全な学校づくりに努める。	①安全点検を行い、迅速に破損箇所の改修を行うことで教育環境の充実に努めた。植栽管理や安全対策が進み校内環境が改善した。 ②掲示板の改修・増設、情報モニターの設置、校内ＬＡＮの整備により設備が充実した。 ③訓練を通し防犯、防災意識を向上させた。	A
いじめへの対応	①様々な教育活動を通して、いじめが起こりにくい学級や学校の風土づくりに取り組む。 ②生徒・保護者への相談活動を充実させ、早期発見・早期対応・早期解決に努める。 ③生徒がいじめを受けていると思われるときには、迅速かつ適切な組織対応を行っていく。	①いじめ防止対策委員会を定期的に開催し、情報共有、共通理解、組織対応を促した。 ②生徒・保護者への相談活動を充実させ、早期発見・早期対応・早期解決に努めた。 ③いじめの事案へは、生徒指導専任・ＳＣ・関係職員で連携し組織的に対応できた。	B
人材育成・組織運営（働き方改革）	①授業研究と評価、生徒理解、安全などの校内研修を積極的に実施し専門性を高める。 ②若手教員を中心としたメンターチームを編成し、教師力、授業力の向上を図る。 ③グループウェア活用等で業務の効率化を図る。 ④組織、諸活動を見直し、教師が生徒や保護者と向き合える時間を充分に確保する。	①授業研究会や各種研修会を実施し、教職員の専門性の向上に努めた。 ②外部の研究会に参加したり、指導主事から直接指導を受けることで教師力が向上した。 ③④校内研修を随時行ったり、グループウェア等で情報提供を頻繁に行うことで、不祥事防止や意識の向上、働き方改革を推進した。	A

ブロック内評価後の気付き
- 中学校ブロック内では、組織的、計画的な小中連携、小中一貫教育が推進できた。
- 授業研究を行い、小中間の理解を深め、小中一貫した授業への意識を高めることができた。
- 小・中教職員の「学力観」「指導観」「評価観」の共有化が図れた。
- 秋葉小との小中連携は、併設校の利点を生かして日常的・積極的に行うことができた。
- 新学習指導要領全面実施にむけて、横浜市カリキュラム・マネジメント要領に基づき、９年間の学びのプロセスを明確にし、９年間を通して児童・生徒の資質・能力を育成していきたい。

学校関係者評価
- しっかりあいさつができている。学校が落ち着いている。地域の評価は高い。
- 登下校時、児童・生徒が広がって歩行していることが気になる。交通安全指導の徹底を。
- 児童・生徒数が増えているので、今後、通学路、通学方法の検討も必要である。
- 学校評価結果や学校・地域のかかわりが少ないのが気になった。顔の見える関係を。
- 不審者からの被害を減らすため防犯カメラを増設し、安心・安全な地域づくりを強化していきたい。
- 中学生の地域行事でのボランティア、頑張っている。中学生の力を感じ入っている。

中期取組目標振り返り
- 新学習指導要領の実施に向けて、年度当初に学校教育目標を策定し準備を進めた。
- 主体的、対話的な授業展開を取り入れた授業づくりを進め、生徒の学習意欲・活動意欲が向上した。
- 生徒指導やいじめへの対応において、教職員が指導方針を一致させ、迅速な組織対応を進めた。
- 教育相談、特別支援教育の充実をめざし、学校ぐるみで取り組みを進めた。
- 情報発信や意見交換、交流活動を積極的に行うことで、家庭、地域、秋葉中ブロック各校、関係機関との連携をさらに深め、信頼される学校づくりをより一層推進していきたい。

2　年度

重点取組分野	具体的取組	自己評価結果	総括
生きてはたらく知	①授業研や生徒による授業評価で授業改善を進め、毎時間の授業を充実させる。 ②様々な手法で、主体的・対話的で深い学びをつくる授業を展開し、知恵をはたらかせ生きる力を育む。 ③学習内容をしっかり身につけられるよう学習相談等を実施し、個に応じた支援を充実させる。	①初任研や年次研修で行う研究授業の中での振り返りと生徒による授業評価を実施した。 ②感染症対策をしながら様々な手法で、主体的・対話的な授業展開を図った。来年度はPCの効果的な活用を進めていく。 ③学習相談を行ったが、長期休暇中は実施できた教材が少なかったので、量の充実を図りたい。	B
豊かな心	①道徳を通して、考え、議論させ、いじめの未然防止などにつながる判断力や心情、態度を養う。 ②規範意識の向上や思いやりの心、人権を尊重する豊かな心を育む教育活動を実践する。 ③互いを認め合い、助け合い、支え合う学校・学年・学級集団をつくる。	①ローテーション授業が定着し、授業者は主題配列に沿った授業内容を行い、生徒の判断力や心情、態度を養った。 ②プレゼンテーション授業を通して相手を思いやる心、社会貢献の姿勢を育てた。 ③学級活動・委員会活動における話し合いを重視した活動により立場や考え方の違いを理解し、支え合おうとする姿勢が見えてきている。	B
健やかな体	①体力・運動能力調査結果などから課題を見つけ、体力の維持、増進に自ら取り組む姿勢を育む。 ②体育的活動を通して、生涯にわたって積極的に運動に親しむ習慣を身につけさせる。 ③健康で安全に生活するための習慣を身につけさせ、たくましく生きる力を養う。	①今年度体力・運動能力調査実施せず。 ②様々な体育活動を通して、体力向上の意識を高めた。 ③感染症対策や学校での新しい生活様式について学校保健委員会を開催し、健康な生活習慣を一人ひとりが考え、実践できるよう取り組んだ。	B
生徒指導	①学校、家庭、地域との連携を深め、生徒の健全育成に努める。 ②日々、生徒の状況把握に努め、変化を見逃さず、予防的生徒指導に力をいれる。 ③生徒・保護者への相談活動を充実させ、安全・安心な学校づくりをめざす。	①職員間での情報共有を密にし、保護者との連携を図りながら、指導を進めることができた。 ②生徒と接する中で、常にアンテナを高くし、生徒たちに寄り添うことができた。 ③定期的なアンケートや教育相談、生徒との会話を通して、状況把握と支援に努めた。	B
特別支援教育	①コーディネーターが中心となり、個別の支援計画に基づき、組織的・継続的な指導に努める。 ②カウンセラーや外部機関とも密に連携し、専門的な支援の方法も積極的に取り入れる。 ③特別支援に対する考え方や手法を研修する場を設け、教員の専門性を高めていく。	①全職員で分担・引継ぎをし、計画的、継続的な特別支援教育を実施することができた。 ②専門的な視点を取り入れながら支援を要する生徒の指導計画を作成し、支援に努めた。 ③実際のケースについて指導する中で研修を行い、考え方や手法を学び教員の専門性を高めた。	B
地域連携	①積極的にわかりやすい情報発信と情報共有を行い、開かれた学校づくりを推進する。 ②学校・地域コーディネーターと連携し、学校・家庭・地域の連携を深める。 ③社会とつながり、共生社会を形成する態度、社会に主体的に貢献する態度を育てる。	①積極的にわかりやすい情報発信と情報共有を行い、開かれた学校づくりを推進する。 ②学校・地域コーディネーターと連携して、学校行事へのボランティアの参加を実現した。 ③地域行事は少なかったが、地域と連携し、自尊生活を行う生徒の様子の把握に努めた。	B
SDGs、ESDの推進	①環境、福祉、防災、人権、国際平和等を学び、次代の社会をつくる力、生きる力を養う。 ②１年次に地域の施設や事業所から講師を招き職業講話、２年次に職場体験、３年次に自己の進路を具体的に考えさせ、持続可能な社会の担い手となるための意識や行動力を育む。	①今年度は「人権作文」や「国際平和スピーチコンテスト」が実施中止となり、学校全体では取り組むなかったが、「Change the world for peace」（３年社会）などを教科の中で、ESDを学んだ。 ②１年職業講話の事前学習、３年進路学習と選択を通して社会の担い手となる意識や行動力を育んだ。	B
教育環境整備	①思いのある豊かな教育環境の整備に努める。 ②ユニバーサルデザインの考え方に基づき、効果的に学習できる教育環境を整備する。 ③防犯、防災意識をさらに向上させ、安全・安心な学校づくりに努める。	①安全点検を行い、破損箇所の改修を行うことで教育環境の充実に努めた。安全対策も、校内環境の改善に努めた。 ②校内ＬＡＮの整備、掲示板の改修・増設により設備が充実した。 ③今年度は小中連携や引き取り訓練などが諸々の事情で実施できなかったが、防災訓練を定期的に実施することで防災意識を高めることができた。	B
いじめへの対応	①様々な教育活動を通して、いじめが起こりにくい学級や学校の風土づくりに取り組む。 ②生徒・保護者への相談活動を充実させ、早期発見・早期対応・早期解決に努める。 ③生徒がいじめを受けていると思われるときには、迅速かつ適切な組織対応を行っていく。	①いじめ防止対策委員会を定期的に開催し、情報共有を図り、共通理解と組織的な対応を実施した。 ②お便り等を通して、生徒・保護者への相談活動を充実させ、早期の「発見・対応・解決」に努めた。 ③いじめの事案に対して生徒指導専任教諭・ＳＣ・関係職員で連携し組織的に対応できた。	B
人材育成・組織運営（働き方改革）	①授業研究と評価、生徒理解、安全などの校内研修を積極的に実施し専門性を高める。 ②若手教員を中心としたメンターチームを編成し、教師力、授業力の向上を図る。 ③組織、諸活動を検討し、教師が生徒や保護者と向き合える時間を充分に確保する。 ④全職員で業務を見直し、効果的な効率化を図る。	①現状に即した授業研究会や各種研修会を実施し、教職員の専門性の向上に努めた。 ②メンターチームを活用したり、指導主事から直接指導を受けたりすることで教師力が向上した。 ③④校内研修を随時行ったり、グループウェア等で情報提供を頻繁に行うことで、業務の効率化や意識の向上、働き方改革を推進した。	B

ブロック内評価後の気付き
- 中学校ブロック内では、組織的、計画的な小中連携、小中一貫教育が推進できた。
- 授業研究は行えなかったが、職員による授業見学や、相談活動を行い、小中間の理解を深め、小中一貫した授業への意識を高めることができた。
- 秋葉小との小中連携は、併設校の利点を生かして日常的・積極的に行うことができた。
- 新学習指導要領全面実施にむけて、横浜市カリキュラム・マネジメント要領に基づき、９年間の学びのプロセスを明確にし、９年間を通して児童・生徒の資質・能力を育成していきたい。

学校関係者評価
- 学校での生徒の様子を見て、表情が良く安心した。多感な時期の子どもたちだが、学校・家庭・地域ともに良い環境ができていると感じる。
- 学校の確実な取組やその思いが伝われば、きっと保護者の安心にもつながる。
- 子どもの自己肯定感を高める取組を、これからも続けてほしい。
- これから導入される生徒用PCを、よりよい教育のために活用してほしい。
- 子どもたちにとって学校は大切な居場所と思う。これからも保護者や地域が学校とともにできることを考えていきたい。

中期取組目標振り返り
- 教育活動の制限が多かったが、人権教育の充実をはかり、誰もが、安心して、豊かに生活できる学校づくりに努めた。
- 交流ふれあい活動は推進できなかったが、生徒は思いやりの気持ちを育てた。
- できることを工夫し、個に応じた授業や、生徒が主体的に取り組む授業を実践した。
- 教職員一人ひとりが学校経営に参画できるよう、学校教育目標や中期学校経営方針を意識するよう努めた。
- 新学習指導要領全面実施や GIGAスクール構想の実現に向けた研修を実施することができた。
- 小中学生の交流はできなかったが、映像を通じて秋葉中学校区の小学生との交流ができた。
- 設置された学校運営協議会の機能を活かし、今後も家庭・地域との連携を深め、信頼される学校づくりを推進したい。

3　年度

重点取組分野	具体的取組	自己評価結果	総括
生きて働く知 **学習指導部**（教科主任会）	①授業研や生徒による授業評価で授業改善を進め、毎時間の授業を充実させる。 ②様々な手法で、主体的・対話的で深い学びをつくる授業を展開し、知恵をはたらかせ生きる力を育む。 ③学習内容をしっかり身につけられるよう学習相談等を実施し、個に応じた支援を充実させる。 ④感染症対策をしながら様々な手法で、主体的・対話的な授業展開を図った。生徒性を育てために単元ホール導入の教材が増えた。PCを活用させる場面も増えた。	①授業研での振り返りと生徒による授業評価を実施した。新教育課程に移行して間もないので、つけたい力や評価と授業の一体化を念頭に置いた授業展開を目指す。 ②感染症対策をしながら様々な手法で、主体的・対話的な授業展開を図った。生徒性を育てために単元ホール導入の教材が増えた。PCを活用させる場面も増えた。	B
豊かな心 **生徒指導部**（学習指導部）	①道徳を通して、考え、議論させ、いじめの未然防止などにつながる判断力や心情、態度を養う。 ②規範意識の向上や思いやりの心、人権を尊重する豊かな心を育む教育活動を実践する。 ③互いを認め合い、助け合い、高め合う学校・学年・学級集団をつくる。	①今年度は道徳授業力向上推進校として授業方法や指導案作成について学び、生徒の道徳的心情や判断力、態度を養う授業づくりに生かすことができた。 ②プレゼンテーション授業を通して相手を思いやる心、社会貢献の姿勢を育てた。 ③今年度も昨年度に引き続き制限がある中での活動でしたが、学級活動・委員会活動における話し合いを重視した活動により、立場や考え方の違いを理解し、支え合おうとする姿勢が見えた。	B
健やかな体 **保健安全指導部**（体育科）	①体力・運動能力調査結果などから課題を見つけ、体力の維持、増進に自ら取り組む姿勢を育む。 ②体育的活動を通して、生涯にわたって積極的に運動に親しむ習慣を身につけさせる。 ③感染症対策や学校での感染症予防について学校保健委員会を開催し、健康な生活習慣を一人ひとりが考え、実践できるよう取り組んだ。 ④自分や身の回りの人の健康・安全について考え、よりよい生活習慣を選択できる実践的な態度を養う。	①新型コロナの影響で全体的に体力が低下しているように見える。 ②様々な体育活動を通して、体力向上の意識を高めるよう努めた。 ③感染症対策や学校での感染症予防について学校保健委員会を開催し、健康な生活習慣を一人ひとりが考え、実践できるよう取り組んだ。	B
生徒指導 **生徒指導部**（渉外部）	①学校、家庭、地域との連携を深め、生徒の健全育成に努める。 ②日々、生徒の状況把握に努め、変化を見逃さず、予防的生徒指導に力をいれる。 ③生徒・保護者への相談活動を充実させ、安全・安心な学校づくりをめざす。 ④定期的なアンケートや教育相談、生徒との会話を通して、状況把握と支援に努めた。	①職員間での情報共有を密にし、保護者との連携を図りながら、指導を進めることができた。 ②生徒と接する中で、常にアンテナを高くし、生徒たちに寄り添うことができた。 ③生徒・保護者への相談活動を充実させ、安全・安心な学校づくりをめざす。 ④定期的なアンケートや教育相談、生徒との会話を通して、状況把握と支援に努めた。	B
特別支援教育 **特別支援コーディネーター**	①コーディネーターが中心となり、個別の指導計画に基づき、組織的・継続的な指導に努める。 ②カウンセラーや外部機関とも密に連携し、専門的な支援の方法も積極的に取り入れる。 ③特別支援に対する考え方や手法を研修する場を設け、教員の専門性を高めていく。	①全職員で分担・引継ぎをし、計画的、継続的な特別支援教育を実施することができた。また、指導計画の改善などにも取り組めた ②専門的な視点を取り入れながら支援を要する生徒の指導計画を作成し、支援に努めた。 ③特別支援に対する考え方や手法を研修する場を設け、教員の専門性を高めていく。 ④ICTを取り入れた支援や、生徒とのつながりや支援を積極的に取り入れた。	A
地域連携 **渉外部**	①積極的にわかりやすい情報発信と情報共有を行い、開かれた学校づくりを推進する。 ②学校・地域コーディネーターと連携し、学校・家庭・地域の連携を深める。 ③社会とつながり、共生社会を形成する態度、社会に主体的に貢献する	①積極的にわかりやすい情報発信と情報共有を行い、開かれた学校づくりを推進する。 ②学校だよりやＨＰだけでなくメール配信を活用し情報発信をした。 ③学校地域コーディネーターと連携して、学校行事へのボランティアの参加を実現した。 ④地域行事は少なかったが、地域と連携し、自尊生活を行う生徒の様子の把握に努めた。	B
SDGｓ、ＥＳＤの推進 **教育課程委員会**	①環境、福祉、防災、人権、国際平和等を学び、次代の社会をつくる力、生きる力を養う。 ②１年次に地域の施設や事業所から講師を招き職業講話、２年次に職場体験、３年次に自己の進路を具体的に考えさせ、持続可能な社会の担い手となるための意識や行動力を育む。	①「人権作文」「国際平和スピーチコンテスト」「Change the world for peace」（３年社会科）を通してＥＳＤを推進した。 ②今年度は、２年次職場体験を１・２年合同職業講話として実施したことと、３年進路学習、進路選択を通して社会の担い手となる意識や行動力を育んだ。	B
教育環境整備 **保健安全指導部**（庶務部）	①思いのある豊かな教育環境の整備に努める。 ②ユニバーサルデザイン・ノーマライゼーションの考え方に基づき、効果的に学習できる教育環境を整備する。 ③小学校や地域と連携した避難訓練を想定しながら実施し、いざという時に命を守るための行動をとることができる環境づくりに取り組む。 ④今年度は小中連携が諸々の事情で難しかった、引き取り訓練や防災訓練を定期的に実施することで防災意識を高めることができた。	①安全点検を行い、破損箇所の改修を行うことで教育環境の充実に努めた。安全対策も、校内環境の改善に努めた。 ②ユニバーサルデザイン・ノーマライゼーション等の考え方に基づいた環境づくりに努めた。 ③今年度は小中連携が諸々の事情で難しかったが、引き取り訓練や防災訓練を定期的に実施することで防災意識を高めることができた。	B
いじめへの対応 **いじめ防止対策委員会**	①様々な教育活動を通して、いじめが起こりにくい学級や学校の風土づくりに取り組む。 ②生徒・保護者への相談活動を充実させ、早期発見・早期対応・早期解決に努める。 ③生徒がいじめを受けていると思われるときには、迅速かつ適切な組織対応を行っていく。	①いじめ防止対策委員会を定期的に開催し、情報共有を図り、共通理解と組織的な対応を実施した。 ②お便り等を通して、生徒・保護者への相談活動を充実させ、早期の「発見・対応・解決」に努めた。 ③いじめの事案に対して生徒指導専任教諭・ＳＣ・関係職員で連携し組織的に対応できた。	A
人材育成・組織運営（働き方改革） **学年連絡会**（衛生委員会）	①授業研究と評価、生徒理解、安全などの校内研修を積極的に実施し専門性を高める。 ②若手教員を中心としたメンターチームを編成し、教師力、授業力の向上を図る。 ③組織、諸活動を検討し、教師が生徒や保護者と向き合える時間を充分に確保する。 ④全職員で業務を見直し、効果的な効率化を図る。	①道徳や教育課程を中心とした各種授業研究会・研修会を実施し、教職員の専門性の向上に努めた。 ②メンターチームを活用したり、講師を招き直接指導を受けたりすることで教師力が向上した。 ③働き方改革や教育課程に関する研修や検討を行うことで、業務の効率化や意識の向上を推進した。	B

ブロック内評価後の気付き
- 中学校ブロック内では、組織的、計画的な小中連携、小中一貫教育が推進できた。
- 授業研究は行えなかったが、職員による授業見学や相談活動を行い、小中間の理解を深め、小中一貫した授業への意識を高めることができた。
- 秋葉小との小中連携は、併設校の利点を生かして日常的・積極的に行うことができた。
- 横浜市カリキュラム・マネジメント要領に基づき、９年間の学びのプロセスを明確にし、９年間を通して児童・生徒の資質・能力を育成していきたい。

学校関係者評価
- 子どもたちは家にいることが増え、体力の低下を感じる。計画の中止が重なることで、あきらめ癖ができ、生徒の心も心配。
- 子どもたちにはICTに慣るのではなく使いこなす人になってほしい。GIGA端末を上手に活用できるよう、慣れていって欲しい。ICTの教育も大切だが、人間どうしの関わりで学ぶことも大切だ。
- 主体性を育てるために、自分から行動しないとならない場やチャレンジできる場を作ってほどうか。家庭においても大人が手を貸さずに、子どもが自分で考えて行動できると良い。

中期取組目標振り返り
- 様々な制限の中、誰もが安心して豊かに生活できる学校づくりに向け、できることを工夫して実施した。
- 交流ふれあい活動は推進できなかったが、生徒は思いやりの気持ちをもち、学校生活を送っている。
- 新学習指導要領全面実施やICT活用により、個別最適で主体的に取り組む授業を研究し実践した。
- 教職員が学校経営に参画し、働き方改善を検討するとともに組織活動の活性化を進めた。
- 今日的な課題についての研修を体系的・組織的に実施し、教職員の資質向上と相互理解を深めた。
- 中学校区の小学校との連携については、ＩＣＴ活用等できることを工夫し、小中一貫教育を展進した。
- 開かれた学校づくりをめざし、家庭・地域・講師間との連携を深め、信頼される学校づくりを推進した。